

求人欄出稿にあたってのお願い

求人欄原稿を受領後、事務局では原稿受領通知をお送りしております。原稿送信後、数日たっても受領の連絡がない場合は、事故防止のため下記までお問合せ願います。

問合せ先：電子情報通信学会編集出版部
TEL [03] 3433-6692, E-mail: shuppan@ieice.org

—教官・教員募集—

●東京理科大学

公募人員 経営学部経営学科嘱託助教 1 名
専門分野 情報系（情報工学，経営情報，その他広義の情報分野）
着任時期 平成 29 年 4 月 1 日
応募締切 平成 29 年 1 月 10 日（火）必着
問 合 先 学科主任 奥村哲史, a27904@rs.tus.ac.jp
詳 細 <http://www.tus.ac.jp/boshuu/kyoin/>

●九州大学

公募人員 九州大学応用力研究所新エネルギー力学部門
教授 1 名
専門分野 太陽光等の新エネルギー取得のための各種要素研究に関して，太陽光エネルギーを高効率に電気エネルギーへ変換する太陽電池に関する研究開発及び共同研究に意欲と実績がある方。太陽電池に関して実験若しくは理論的な観点から研究教育を行う方の応募を期待する
応募締切 平成 29 年 1 月 31 日（火） 17 時必着
問 合 先 応用力学研究所 柿本浩一
TEL [092] 583-7741, kakimoto@riam.kyushu-u.ac.jp

●大分大学

公募人員 准教授 1 名
所 属 工学部知能情報システム工学科知能システム講座
専門分野 計算基盤，特にデータベースシステム，情報検索やクラウドコンピューティングなどに関する分野
着任時期 平成 29 年 9 月 1 日以降のできるだけ早い時期
応募締切 平成 29 年 3 月 1 日（水）必着
問 合 先 工学部知能情報システム工学科教授 中島 誠
TEL [097] 554-7884, nakasima@oita-u.ac.jp
詳 細 <http://www2.cc.oita-u.ac.jp/eng/koubo.html>

●株式会社豊田中央研究所

募集人員 客員研究員 2 名程度（1 年ごとの契約更新，最長 3 年）
職務内容 機械学習，知能化システム，データサイエンス，自律分散システム，空間情報処理など
専門分野 機械学習，コンピュータビジョン，マルチエージェントシステム，知能ロボティクスなど
応募資格 上記に関する研究経験があり，博士の学位を有する方
待 遇 等 <http://www.tytlabs.co.jp/recr/kyakuin.html> 参照
応募締切 順次選考，採用が決定次第終了
書類送付先 〒480-1192 愛知県長久手市横道 41-1
(株)豊田中央研究所人材開発室採用担当

◎求人欄の執筆要領につきましては下記を御覧下さい。

URL : <http://www.ieice.org/jpn/books/ad/kyokanshainboshu.html>

◎次回締切 3 月号掲載分 平成 29 年 1 月 25 日（水）必着

◎会告求人欄に掲載された内容は本会ホームページに掲載しております。下記からお入り頂くと今月号だけではなく，締切前の求人が全て御覧になれます。

URL : <http://www.ieice.org/jpn/service/kyokanboshu.html>

●…………… お 知 ら せ ……………●

—情報・システムサイエティ英文論文誌の
オープンアクセス化について—

電子情報通信学会は，来る平成 29 年 5 月 1 日をもって創立 100 周年を迎えます。この 100 年間，電子情報通信分野の学問・技術は大きな変貌をとげました。特にインターネットが誕生してからは，学問・技術のボーダーレス化が急速に進むと共に，学会のグローバル化が必要不可欠なものとなってきています。創立 100 周年を迎える電子情報通信学会では，これまでの領域にとらわれず，広く人文科学，社会科学等とも連携・協働し，新たな社会価値創造の推進，更には国際的な認知度向上による会員数の増加を目指した大きな制度改革に取り組んでおります。その一環と致しまして，電子情報通信学会では英文論文誌のオープンアクセス化の検討を行っています。オープン化を実施することにより，英文論文誌に採録された論文は，全世界から無料でアクセスすることが可能となります。このことから英文論文誌サーキュレーションの飛躍的な拡大と質的な向上，ひいては人文科学や社会科学等の幅広い分野との連携・協業，そして新たな社会的価値創造へとつながることが期待されます。更に，国際的認知度の向上によるコミュニティ拡大が，本会活動発展の起爆剤となることを狙っています。このためのステップとして，先行して検討を進めてきた情報・システムサイエティにおいて 2017 年 1 月から英文論文誌のオープン化*を開始し，財務的な影響を含め有効性を検証してゆくこととします。

*J-Stage のプラットフォームを通じてオープンアクセス化致します。